

Babel の概要

Babel の概要について解説します。

```
\selectlanguage{< lang >}
```

`\selectlanguage` コマンドである言語を選択すると、以後、異なる言語をこのコマンドで選択するまで、引数で指定したオプション `<lang>` で定義されているすべての機能が有効です、ハイフネーションも `<lang>` の規則に切り替わります。

```
\selectlanguage{german}
```

```
"a "o "u "s \quad \today \quad \refname
```

 と指定すると、

ä ö ü ß 12. April 2013 Literatur となります。

頻繁に言語を切り替える必要があるときは、次のようなコマンドを定義しておくとう入力が容易になります。

```
\newcommand{\se}{\leavevmode\selectlanguage{english}}
```

```
\newcommand{\sg}{\leavevmode\selectlanguage{german}}
```

```
\newcommand{\sj}{\leavevmode\selectlanguage{japanese}}
```

```
\foreignlanguage{< lang >}{text}
```

`\foreignlanguage` コマンドは、オプション `<lang>` の諸定義に従って `text` を組版します。ただし、キャプションと日付は変わらず、直前の言語による出力になります。

```
\foreignlanguage{german}{
```

```
"a "o "u "s \quad \today \quad \refname}
```

 と指定すると、

ä ö ü ß 2013 年 4 月 12 日 参考文献 となります。

```
\begin{otherlanguage}{< lang >}
```

`\selectlanguage` と同じ機能ですが、`otherlanguage` 環境で指定したオプション `<lang>` の諸定義とハイフネーション機能はこの環境内でのみ有効です。

```
\begin{otherlanguage}{english}
```

```
"a "o "u "s \quad \today \quad \refname
```

```
\end{otherlanguage}
```

 と指定すると、

"a "o "u "s April 12, 2013 References となります。

```
\begin{otherlanguage*}{< lang >}
```

`otherlanguage*` 環境はオプション `otherlanguage` 環境と同様ですが、キャプションと日付は変わりません。

```
\begin{otherlanguage*}{german}
```

```
"a "o "u "s \quad \today \quad \refname
```

```
\end{otherlanguage*}
```

 と指定すると、

ä ö ü ß 2013 年 4 月 12 日 参考文献 となります。

`\iflanguage{<lang>}{then-code}{else-code}`

`\iflanguage` コマンドは、現在選択されている言語が `<lang>` と同じであれば `then-code` に指定したコマンドを実行し、異なれば `else-code` に指定したコマンドを実行します。次の例は、ドイツ語新正書法に対応した `ngerman` なら `dass` と綴り、旧正書法 `german` なら `daß` と綴る定義です。

```
\selectlanguage{german}
da\iflanguage{ngerman}{ss}{\ss} \quad
\selectlanguage{ngerman}
da\iflanguage{ngerman}{ss}{\ss}と指定すると、
```

`daß` `dass` となります。

`\language`

`\language` は現在選択されている言語の名前を保持し、それを出力します。

```
\selectlanguage{english} \language \quad
\selectlanguage{german} \language と指定すると、
```

`english` `german` となります。

`\languageattribute{<lang>}{attribute}`

`\languageattribute` コマンドは、`<lang>` に `attribute` で定義する言語の属性を追加します。今のところ、ギリシア語に対して古典ギリシア語の属性を与える `polutoniko` と、ラテン語に対して中世ラテン語の属性を与える `medieval` が定義されています。このコマンドはプリアンブルで指定します。

```
\usepackage{greek,english}{babel}
\languageattribute{greek}{polutoniko}をプリアンブルに指定し、
The Greek word for ‘Index’
is \selectlanguage{greek}\indexname. と指定すると、
```

The Greek word for ‘Index’ is Εύρετήριο. となります。

`\textlatin{text}`

`\textlatin` コマンドは、ギリシア文字あるいはキリル文字を使った文章の途中に、ラテン文字による語句などを挿入するような場合に使用します。このコマンドは、フォントだけを変更します。分綴はギリシア語あるいはロシア語の規則によって処理されます。

```
\foreignlanguage{greek}{%
>En >arq\~h| \~h>\~h<ol’ogoc \textlatin{(word)}, ka‘i >ol’ogoc}
\foreignlanguage{russian}{%
V naqale bylo Slovo \textlatin{(word)},i Slovo a Boga}と指定すると、
```

Ἐν ἀρχῇ ἡ᾿ὀλόγος (word), καὶ ὀλόγος

В начале было Слово (word),и Слово а Бога となります。

`\textgreek{text}`

`\textgreek` コマンドは、ラテン文字を使った文章の途中に、ギリシア文字による語句などを挿入するような場合に使用します。`\foreignlanguage{greek}`を使用した方が正確に表示することができます。

```
\foreignlanguage{latin}{%
Magistr\=atus virum ostendit. \textgreek{gn~wji seaut'on}, deus erat verbum.}
```

```
\foreignlanguage{latin}{%
Magistr\=atus virum ostendit. \foreignlanguage{greek}{gn~wji seaut'on}, deus erat verbum.}
と指定すると、
```

Magistr̄atus virum ostendit. γνῶθι σεαυτόν, deus erat verbum.

Magistr̄atus virum ostendit. γνῶθι σεαυτόν, deus erat verbum.

となります。